

鳥取大学附属図書館と県内図書館ネットワーク

森田 正

1. はじめに

鳥取県は人口約62万人、鳥取市、倉吉市、米子市、境港市の4市と14町1村で構成され、東西に長い県である。大学は鳥取大学、鳥取環境大学(以下「環境大学」)、鳥取短期大学の3校しかなく、他の県に比べれば極めて少ない。また、公共図書館も4市を中心に24館が図書館サービスを展開している現状である。

鳥取大学附属図書館は中央館(鳥取市)と医学部分館(米子市)で構成されている。鳥取市と米子市の距離は88kmと離れているため、学内の中でも不便なことが多々ある。しかし、鳥取県全県との地域連携を進める上では中央館が鳥取市、医学部分館が米子市、境港市と近い距離にあることが、大きなプラス要因となった。

2. 県内図書館との連携の現状

まず2001年より、大学間同士の連携を深めるため大学3校と米子工業高等専門学校(以下「米子高専」)を含めた「鳥取県大学図書館等協議会」を設立し、お互いの構成員に対する連携サービスから開始した。しかし、現実的には離れた図書館への利用は少なく、より効果的な連携ができないか協議会で検討を重ねてきた。

2002年には、県立図書館と相互協力協定を結び、相互貸借等のサービスを開始した。現在では、本学の構成員が県立図書館の資料を本学カウンターで受取、返却ができるようになった。県立図書館には本学で所蔵の少ない一般書が多く所蔵されているため、利用が年々増加している。返却も専用返却ボックスを設置することにより、学生の期限内返却率が高められた。医学部分館には協力用図書として300冊(3か月ごと)を借用し、利用者から好評を得ている。

2005年10月には鳥取市立中央図書館(以下「鳥取市立図書館」)と中央館、米子市立図書館と医学部

分館が相互協力協定を結んだ。近隣の公共図書館との連携を行うことにより、身近でより効果的な相互協力が可能となった。

鳥取市立図書館とは、本学構成員が鳥取市立図書館のカード番号でホームページから予約を行い、受取先を「鳥取大学図書館」とすれば、本学図書館カウンターで本を受け取る仕組みとし、返却も本学でできるようにした。

米子市立図書館からは、協力用図書100冊(3か月ごと)を借用している。このことにより、利用者は医学部分館の閲覧室に足を運ぶことが多くなり、利用も増加している。また、すでに附属病院内図書館への団体貸出サービスも受けており、入院患者へのサービスも充実した。

鳥取市立図書館、米子市立図書館との連携を機に、講演会、講習会も共同で開催している。2005年度には鳥取市立図書館で2回、米子市立図書館で1回開催した。これらの開催にあたっては両館員が企画から検討し、ポスター作成や報道機関等への広報も行っている。両市立図書館からのPRは効果的で、会場いっぱい参加者を得た。大学内で開催していたときに比べ会場も広く、一般市民の方の参加も増加した。また、米子市立図書館との共催により「パワーポイント入門」講習会を開催した。本学図書館職員が講師、補助者となり、当初20名程度を考えていた講習会であったが、一般市民からの参加申し込みが多く、52名の参加があり、2回に分けて開催した。参加者からは「たいへんよかった」「次回もやってほしい」との声が多く出された。

3. 館種をこえた連携

2005年度から鳥取大学、環境大学、県立図書館、鳥取市立図書館の実務者を一堂に集め、「鳥取地区図書館実務者連絡会議」を開催している。より現実的な協力連携を協議し、現在その成果として

次の連携協力が実現、または実現予定となった。

① 鳥取大学附属図書館と鳥取環境大学図書館との現物貸借送料の無料化

鳥取市立図書館は本学のほかにも同時に環境大学とも相互協力協定を結んでおり、2006年1月より鳥取市立図書館の配送システムを利用した両大学間の現物貸借送料の無料化が実現した。まだPR不足もあり利用度は少ないが、両大学の利用者にとっては、非常に便利なサービスである。

② 高等学校図書室への資料貸出

鳥取県はご存じのとおり、片山知事が「図書館大会」「ディスカバー図書館 in とっとり」などでも講演されているように、図書館行政に力を入れている。その一環として2004年度までに正規の職員である常勤司書を全日制の県立高校全校に配置した。このことにより、高校生のニーズに合った推薦図書の展示や県立図書館からの借り入れなどが積極的に行われ、高校での図書貸出冊数が倍増している。このような状況から、大学所蔵の専門書への利用ニーズも高まっており、本学が提案し、県立図書館の配送システムを利用して2006年4月より鳥取県東部地区高等学校から本学資料の貸出サービス(試行)を実施する予定である。その利用実績を見て、西部地区、中部地区へとサービスを拡大していく予定である。

③ 短期相互職場体験研修

館種の異なる図書館で相互に職場体験研修を実施することにより、互いの職場の業務を理解し、さらなる連携強化に結びつけたいと考えている。2006年度には県立図書館と本学間で5日間程度の相互職場体験研修を実施する予定であり、成果が上がれば、鳥取市立図書館等とも実施を検討したい。

4. 図書館ネットワークの必要性

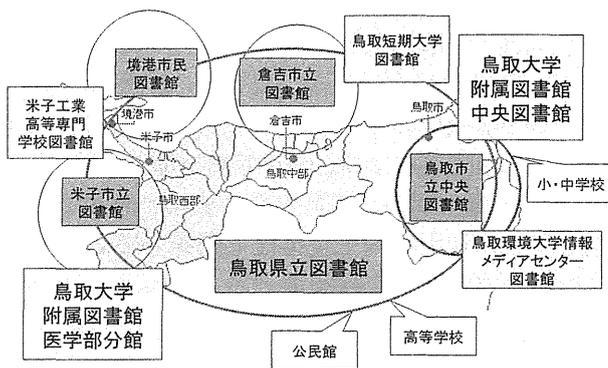
前述のように本学は鳥取県東部地区に中央館、西部地区に医学部分館があり、その立地条件がそれぞれの地区をとりまとめるには好都合で、近隣の大学、公共図書館との連携強化につながっている。つまり、互いの館が近隣に位置し、各図書館担当者がまめに双方の館を訪れ、協議を重ねることができる環境にあることが重要なポイントである。東部地区は本学中央館、県立図書館、鳥取市立図書館、環境大学図書館を中心に人的ネットワークが機能し、西部地区は本学医学部分館、米子高専図書館、米子市立図書館、境港市民図書館

を中心に人的ネットワークが機能しており、人と人の交流の中でそれぞれの特色を生かした新しい活動を展開している。もうひとつの重要なネットワークは、特に県立図書館、鳥取市立図書館が有している物流ネットワークである。両図書館が有するこの物流ネットワークの存在が連携強化に大きな役割を果たしている。今後この物流ネットワークを利用して、他の公共図書館ともさらなる特色ある図書館サービスが展開できると考えている。

5. おわりに

公共図書館との間で相互協力協定を結び、連携強化に努めようとしている大学図書館は多い。そういった意味では、特に目新しい事例ではないとも見えるが、しっかりとした物流システムに支えられ、館種を越えた活発な人的交流のもとに展開されている相互協力事例は、実はそれほど多くない。本学のこの取り組みは、自館だけではなく、地域社会全体の図書館サービスを考える上で、大きな財産となり得るものと自負している。大学図書館側がもっと地域に踏み込み、地域の図書館と一体となってサービスを展開することが、地域住民への読書文化の普及に寄与するものと考えている。

今後の展開として、地域住民に対して鳥取市立図書館資料を大学図書館で貸出、返却できるサービスなどの連携サービスの拡大を検討している。本学がめざす図書館連携の姿は、図のとおりである。



参考文献

・白木俊男, 森田正「鳥取大学附属図書館における社会貢献の現状—県内図書館との連携—」『大学図書館研究』76号 2006年 (もりた ただし:鳥取大学附属図書館)

[NDC9 : 017.7172

BSH : 1.鳥取大学附属図書館 2.図書館協力]